

第2章 研究の内容 2. 4A児事例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-01-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00064694

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



2. 4A児事例

亀田 有紗

抽出児について：4A児（男児）

・1学期の様子

探究心について：気の合う友達と虫探しをすることが多く、毎日何を捕まえるか目的をもって遊んでいる。捕まえた虫と昆虫図鑑に載っている虫を照らし合わせる姿も見られる。

自己主張について：「僕は一緒に〇〇したいんだ」と言って友達を誘ったり、友達が誘いに乗らなくても1人で虫探しをしたりして自分のしたいことをすることがある。

自己抑制について：一緒に遊んでいる友達が「これほしい」「〇〇になりたい」など自分の気持ちを話すと、自分も友達と同じ気持ちであってもそれを出さずに、友達に譲ることがあった。

・抽出児とした理由

虫への関心が高く、今後その探究心がどのように変化していくか、また、虫があまり見られない時期にはどんなものに関心が向いたり探究したりしていくのかを知りたいと思い、抽出児とした。また、自分のしたい遊びでは自己主張が見られるが、友達と仲良く遊びたいという思いから自然と自己抑制をすることも多く見られた。どのような援助を行うことで、自分の思いを出しながら友達と遊びを楽しむようになるか探っていきたいと考えたことも、抽出児とした理由である。

事例2-1 4A児 9月15日 「ちょっとよく見てみて」

探究心：物事の仕組みや性質、原因を知ったり確かめたりしようとする事

幼児の姿

園庭で捕まえたオニヤンマを虫かごに入れて保育室に持ってきた4A児、4C児、4D児。4A児たちは、それぞれ絵本棚から持ってきた昆虫図鑑を見ていた。4A児は自分で捕まえたオニヤンマと図鑑に載っているオニヤンマを見比べていた。

①4A児 「4C児くん、ちょっと違わない？」

4C児 （4A児のそばに行き、図鑑と見比べながら）「違うところある？」

①4A児 「うん、ぼくが捕まえたのと違うと思うんだけど」

4D児 「4A児くん、オニヤンマだよ。合っているよ」

②4A児 「違うの、ここ、ちょっとよく見てみて、ほら、羽が違うの。ぼくが捕まえたオニヤンマの羽ちょっと小さくない？」

（環境構成）

絵本棚には、『昆虫』（学研）、『こん虫ふしぎ図鑑』（チャイルド社）の2冊の図鑑を置いていた

探究心

① 捕まえたオニヤンマと図鑑に載っているオニヤンマを照らし合わせ、違うところがあると分かり、不思議に思った

疑問

探究心

② どこがどう違うのか、自分で気付いたことを友達に説明している

気付き 照合

4C児と4D児は虫かごの中にあるオニヤンマをよく見た。

4C児 「うーん、4C児には分からないけど」

4A児 「先生、見てみて。こっちの羽小さいよ」

4A児から離れたところに教師はいたが、虫かごを持って見せに来たので、4A児の気付きを大切にしたいと思い、「本当だ。小さいね」と、共感しながらオニヤンマを見た。

③4A児 「こっちの(片方の)羽がちょっと曲がっているの、だからあんまり飛ばないんだ」

4C児 「そうなんだ」

4A児 「うん、だから明日は大きなオニヤンマ捕まえないな」

4D児 「いいね、4A児くん。4D児も捕まえるぞ」

4C児 「4C児も！」

3人は翌日も虫捕りを楽しんだ。

探究心

③ オニヤンマがあまり飛ばないことに結び付けている

推測

事例2-2 4A児 10月14日 「僕は草を食べると思うの」

探究心：物事の仕組みや性質，原因を知ったり確かめたりしようとする事

幼児の姿

園庭で虫探しをして遊んでいた4A児，4C児，4D児，4E児。4E児がバッタを見つけ，4D児が虫取り網を使って捕まえた。4D児は虫取り網からそっと虫を出して虫かごの中に入れた。4人は虫かごの中をのぞきながら，

4E児 「あ，小さいバッタだね，バッタって何食べるの？」

4D児 「バッタはね，草を食べるんだ」

4E児 「じゃあ，草を入れたらいいんだね」

4E児はバッタのエサになる草を採り始めた。4E児たちのやり取りを聞きながら，4A児はじっとバッタを見ていた。

4A児 「4E児くん，ぼくツユムシだと思うの」

4E児 「え，バッタじゃないの」

4A児 「バッタの仲間なんだけど，ツユムシっていう虫なの」

4C児と4D児は，4A児の話聞いて「ツユムシか！」と納得していた。

4A児 「ツユムシは，バッタより小さいの。だからあんまり飛ばないんだよ」

4E児 「そうなんだ，ツユムシも草食べるの？」

①4A児 「うん，バッタの仲間だから草食べると思うから，入れてみよう」

探究心

① 草を食べるのではないかと予想し，食べるかどうかを見ている

関連付け 試行

4A児と4E児のやり取りを聞いていた4C児と4D児も虫かごに草を入れて、①ツユムシが草を食べないかとしばらく見ていたが、草を食べる姿を見ることはできなかった。4人は、②他の草を入れてみるがツユムシは食べなかった。4C児は「今、お腹空いてないんじゃないかな」と言い、4D児とまた虫探しを始めたが、③4A児はツユムシを見ていた。4E児が「4A児くん、土は？水は？」と他の自然物を虫かごに入れることを提案するが、④4A児は「僕は草を食べると思うの」と話し、ツユムシを見ていた。遊びの時間が終わり、保育室に戻った後もしばらくツユムシを見ていたが変わりはない。降園時に、虫かごを持とうとした時、④4A児は草が少し減っていることに気づき、「ねえ、見て見て！草がちょっとなくなっている、草食べたんだ」と、一緒に遊んでいた友達に話していた。

探究心
② 違う草なら食べるのではないかと予想し、食べるかどうかを見ている
[推測]

探究心
③ あきらめずに試し、食べるかどうかを見ている
[試行]

探究心
④ 食べたかどうか確かめたいという思いがあり、気付いた
[確認] [気づき]

事例2-3 4A児 1月21日 「溶けないようにしたいんだけど」

探究心：物事の仕組みや性質、原因を知ったり確かめたりしようとする

幼児の姿

朝、「見て見て、お兄ちゃんにとってもらったの」と氷柱のかけらを持ってきた4A児は、①「これ溶けないようにしたいんだけどどうしようかな」と話すと、教師と一緒に氷柱のかけらを見ていた4F児が「ここ(保育室)あったかいから外の方がいいんじゃない？」と提案した。①4A児は、園庭に積もった雪に氷柱のかけらを刺してみる。

4A児 「これじゃあ(氷柱のかけらが)どこにあるかわからないよね。」

4F児 「うん。どうする？」

②4A児 「あ、何か箱に入れるのはどう？そしてたらどこにあるかわかるよ！」

と言い、保育室の材料箱から様々な箱を出し始めた。

4A児 「これ(紙でできた菓子箱)だと、ふたが付いているからいいんじゃない？」

4F児 「うん。外に置いておいてもどこにあるかわかるし、外があったかくなっても、この中だったら大丈夫そう」と話し、氷柱のかけらを箱の中に入れる。しかし紙に水が浸み込んできていることに気がつき、困った様子の2人であったが、すぐに他の箱を探し始める。

4F児 「4A児くん、これ(ヨーグルトのプラステ

探究心
① 氷柱のかけらが溶けないようにするにはどうすればいいのか考えて、4F児の提案を試している
[試行]

探究心
② 氷柱のかけらがどこにあるのか分かるようにするために、箱に入れることを思い付き、試している
[試行]

ック容器)はどう?これなら濡れないよ!」

③4A児 「ほんとだ!でも蓋がないからもし倒れたら、氷なくなっちゃうかも。うーん…、あ!これ(小さな飲むヨーグルトの容器)だと、いいんじゃない?」

4F児 「うん!」

2人は容器に氷柱のかけらを入れ、雪山に刺してみる。

4A児 「これで大丈夫!④溶けていないか見に来よう」

と話し、身支度を始めた。

探究心

③ 氷柱のかけらが入っていることが分かり、水に強いものに入れなければいけないと気づき、どんなものが合うのかを考えて、試している

【気づき】 【試行】

探究心

④ 氷柱のかけらはこれでなくならないうらうかと確かめたいと思っている

【確認】

事例2-4 4A児 9月14日 「1人でも行くよ」

自己主張: 相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

4A児, 4C児, 4D児が、虫捕りをして遊んでいた。途中から雨が強くなり、テラスに戻り、雨宿りをしていた。

4A児 「先生、雨いつ止むかな」

教師 「うーん、いつかな」

4D児 「雨が止んだら、また虫捕りしようよ」

4C児 「うん、そうしよう」

4D児 「ねえ、それまで忍者ごっこしない?」

4C児 「いいね、4A児くんも一緒にしよう」

4A児 「うん!」

雨が止むまでの間、忍者ごっこをして遊ぶことに決めた3人。保育室へ行き、忍者ごっこを始めようとする、雨がさらに強くなってきた。

4C児 「やっぱり、ずっと忍者ごっこしない?」

4D児 「いいよ、明日晴れたらずっと虫捕りできるもんね」

①4A児 「僕は虫捕りしたいんだけど」

4D児 「でも、雨強くなってきているよ」

4C児 「4C児は忍者になるよ」

②4A児 「僕は虫捕りしたいの。1人でも行くよ」

教師 「4A児くんは、虫捕りをしたいんだね」

③4A児 「うん、今日まだ何も捕まえてないから、昨日もカマキリ捕まえられなかったし…虫捕りしたいの」

しばらく3人で雨が弱まるのを待ってみるが、なかなか変わらないため、4C児、4D児は忍者ごっこをし始める。4A児は、虫捕り網を持って雨が弱まるのを待ち続けたが、傘をさして教師と一緒に虫捕りをしに園庭へ出た。虫を探す、見つからなかったので保育室に戻った。

自己主張

① 忍者ごっこではなく、虫捕りをしたい気持ちを友達に話している

【意思表示】

自己主張

② 1人でも虫捕りをしたいという気持ちを繰り返し友達に話している

【意思表示】

(教師の援助)

4A児は、1人でも虫捕りをしたい理由があると予想して、それを4C児、4D児に知って欲しいと思い、4A児の言葉を繰り返した。

自己主張

③ 虫捕りをしたい理由を友達に話している

【説明】

事例2-5 4A児 11月16日 「僕はリレーしたいな」

自己主張:相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

4A児, 4C児, 4D児が, 「先生, 今日もリレーしよう」と教師に声を掛けてきたので, 一緒にリレーコースの準備をした。

4D児 「4人だといつもすぐ終わっちゃうんだよね」

4C児 「うーん, どうする? リレーの後に鬼ごっこする?」

教師 「4C児くんはいつもみたいにすぐリレーが終わったら, 今日は鬼ごっこをして遊ぶのはどうかなって考えたんだね」

①4A児 「えー, 僕はリレーしたいな」

②4A児 「みんなに聞いてくる」

4C児 「待ってよ, 4A児くん」

教師 「4A児くんは鬼ごっこをするのではなくて, ずっとリレーをして遊びたいんだよね」

③4A児 「うん, だからみんなを呼んできてリレーするの。そしたらすぐ終わらないから」

教師 「先生も一緒にみんなリレーしないか聞きに行くね」

4D児 「たくさん集まったら楽しいよね」

4人で一緒に友達を誘いに行く。しかし, なかなか友達が集まらず, 座り込む3人。

④4A児 「僕は4人でリレーしたいな」

4C児と4D児は, すぐに動こうとしなかった。そこへ同学年の友達がやってきたので, 4A児が声を掛けると仲間に加わった。

その後, 数人の友達が加わり, リレーごっこを楽しんだ。

自己主張

- ① リレーをしたい気持ちを友達に話している

意思表示

自己主張

- ② リレーをするために友達を誘いに行くことを思いつき, 伝えている

提案

(教師の援助)

4C児は状況が分からず困っていたので, 4A児の理由が分かるように伝えた。

自己主張

- ③ みんなに聞いてくる理由を4C児と4D児に話している

説明

自己主張

- ④ リレーをしたい気持ちをもう一度, 友達に話している

意思表示

自己主張：相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

4G児, 4H児, 4I児は, 小さな雪玉を2つ重ねて置いて雪だるまを作った。その後, 4J児や4D児と雪合戦をしていると, 飼育活動を終えた4A児も加わり遊んだ。片付けの時間になり, テラスへ向かうと, 雪だるまの頭がなくなっていた。

4G児 「あれ, 雪だるまの頭なくなってる！」
 4H児 「どこか飛んで行ったんじゃない？」
 4J児 「ちょっと今日風強かったもんね」

雪だるまの頭がなくなったことは少し残念そうであったが, それほど落ち込んでいる様子ではなかった。4G児は4H児に, 「また明日作ろう」と話し, テラスで長靴を脱ぎ始めた。すると, その場で友達のやり取りを聞いていた4A児が, 4G児に近づいてきた。

①4A児 「4G児ちゃんごめんね。ぼく使っちゃったの」
 4G児 「何に使ったの？あ, もしかして雪玉？」
 4A児 「うん。ぼく雪だるまって知らなかったの」
 4D児 「4A児くん今日飼育当番行ってきてたからね, 4G児ちゃんたち作っているの知らなかったんだよね」
 4G児 「4A児くんいいんだよ, 雪だるま小さかったんだもん」

②4A児 「ごめんね。明日は一緒に作らない？」
 4G児 「いいよ！大きい雪だるまにしようよ」
 4A児 「うん！」

次の日, 木の枝を園庭で見つけた4G児は「4A児くんこれ手にするのはどう？」と話し, 4A児は「いいね！ボタンもつけよう」と, 昨日より大きな雪だるまを作って遊んだ。

自己主張

① 4G児が少し残念そうにしていたので, 4A児はわざと雪玉として使ったわけではなかったが, 自分から謝っている

状況把握 省察 推察

自己主張

② もう一度謝り, 今度は一緒に雪だるまを作ろうと誘っている

提案

事例2-7 4A児 9月8日 「使っていいよ」

自己抑制: 自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿	
水鉄砲を使って遊んでいた4A児, 4C児, 4K児, 4L児。4K児が使っていた水鉄砲が壊れてしまい, 4C児が使っていた水鉄砲を使おうとした。	
4C児	「ちょっと待って, 今僕が使っているの」
4K児	「僕の壊れちゃったの」
4C児	「でも, 取らないでよ」
4L児	「4L児ちゃんも使いたいけど, 待ってるんだよ」
4C児	「もー, 引っ張らないでよ4K児くん」
4L児	「仲良く使おうよ, じゃないとまた壊れちゃうよ, ね, 先生」
教師	「そうだね, みんなで使うものだから大切にしようね」
4K児	「僕も欲しい」
①4A児	「4K児くん, 僕の使っていいよ」
4K児	「いいの? ありがとう」
4L児	「ちょっと待って, 4A児くん今使っていたのにいいの?」
②4A児	「僕も使いたいけど, 4K児くんのが壊れちゃったから, 僕の使っていいよ」
4L児	「4A児くん僕も使いたいな」
4A児	「んー, そしたらジャンケンで順番を決めようよ」
4C児	「うん, 僕のと4A児くんのを交代で使おうよ」
4K児, 4L児	「そうしよう」
4人でジャンケンをして水鉄砲を使う順番を決めて遊び始めた。	

自己抑制

- ① 4K児たちのやり取りを何も言わずに聞いていたが, どうにかしようと思い, 自分が使っている水鉄砲を渡そうとした

状況理解

自己抑制

- ② 自分も使いたい, が, 4K児が使いたい気持ちを受け入れ, 譲っている

受け入れ

自己抑制：自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

4A児, 4C児, 4D児, 4L児, 4E児は園庭で虫捕りをして遊んでいた。4A児と4E児がカマキリを見つけて、虫捕り網を持っていた4D児が捕まえた。

4E児 「やったー、4D児くんここ(4E児の虫かご)に入れて」

4D児 「えー、でも4D児ちゃんが捕まえたんだよ」

4E児 「見つけたのは、4E児と4A児くんだよ。ね、4A児くん」

4A児 「うん。ぼくもカマキリ欲しい」

4L児 「じゃあ、じゃんけんするのはどう？」

4A児 「じゃんけんはいやだな」

4E児 「うんうん。せっかく見つけたのに、(じゃんけん)負けたらもらえなくなるもん」

4D児 「4D児ちゃんやっぱいいよ。今日もうこれより小さいけど、カマキリ捕まえたから」

4A児 「4D児くんいいの？」

4D児 「いいよ。また探したらいいからね」

①4A児 「んー、ぼくもやっぱいいよ。4E児くんあげる」

4E児 「いいの？ありがとう！」

4C児 「4A児くんいいの？」

①4A児 「いいよ。ぼくもうオンブバッタつかまえたから。4E児くんの虫かごにまだ何も入っていないからそこにカマキリ入れたらいいの。ぼくのところにいたらバッタがカマキリの餌になっちゃうから」

4L児 「そうだね。それは(バッタが)かわいそうだね」

4D児が捕まえたカマキリを4E児の虫かごに入れた後、再び虫探しを始めた。

(補足)
4A児, 4C児, 4D児, 4L児, 4E児は虫が好きで、1学期から毎日虫捕りをして遊んでいる。4E児は、2学期に入り教師と一緒に虫捕りをして遊び始めたが、最近友達と一緒に虫捕りをするようになった。

自己抑制

① 本当はカマキリを欲しかったが、4D児が「また探したらいい」と話してことで、自分もそう思い、気持ちを切り替えて4E児に譲ろうとする。4C児に本当に譲っていいのか聞かれるが、4A児は自分の虫かごの中にあるバッタを大切にしたいと自分の気持ちを友達に話している

切り替え

(補足)
4A児は、「カエルは餌を見つけられないから、お家に持って帰って育てないんだ」と話し、捕まえた虫をその後どうするかを自分で考えて、逃がしたり友達にあげたりしている。

自己抑制：自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

4A児と4F児は朝、氷柱のかけらを溶けないようにするために、小さな容器に入れ、雪山に刺していた。身支度を済ませ、氷柱がどうなっているのかを見に、園庭に出た。

4A児 「あ、(氷柱のかけらが)小さくなっているよ」

4F児 「本当だ」

4A児 「どうしよう、このままじゃなくなるよ」

2人が困っていると、4M児が「先生、雪遊びを一緒にしよう」と言い、園庭にやって来た。

4M児 「4A児くん、それ何？」

4A児 「これ、氷柱のかけらなの。でも、なくなりそうなの」

4M児 「雪いっぱい入れたらいいよ。」

4A児 「そしたらなくなるの？」

4F児 「あ、氷が大きくなるんじゃない？」

4A児 「んー、でもそしたらこれ(氷柱のかけら)が分からなくなるの？」

4F児 「でも、なくなるよ」

4A児 「4A児くんのこれ(氷柱のかけら)なくなるのはいやだからな…①雪入れてみようかな」

4F児 「ちょっとずつ入れてみようよ」

4A児 「うん、そうしよう」

4A児と4F児は2人で少しずつ容器に雪を入れていた。

自己抑制

- ① 4A児は、今ある氷柱のかけらをなくしたくないが、氷柱のかけらは溶けて小さくなっているの、残しておきたいと思い、容器に雪を入れるアイデアを試してみることにした

妥協 葛藤 試行

考察 -4A児の1年を振り返って-

1. 「探究心」「自己主張」「自己抑制」の発達の様相について

(1) 「探究心」について

事例2-1では、捕まえた虫と図鑑に載っている虫を照合し、虫があまり飛ばないことを推測していた。事例2-2では、捕まえた虫の餌は草だと推測し、何種類も草を虫かごに入れ、食べるかどうか試行していた。事例2-3では、氷柱のかけらが溶けないようにするにはどうすればいいのかを考えて試行していた。

3つの事例から、虫や氷などの身近な自然物に興味をもち続け、虫の特徴を踏まえて関わり方を変えたり、氷のようにそのもの自体の状態が変化する様子に気づいたりして探究心が深まったと考えられる。

(2) 「自己主張」について

事例2-4では、気の合う友達に虫捕りをしたい気持ちを意思表示し、したい理由を説明していた。事例2-5では、一緒に遊んでいる友達や周りの友達にリレーをしたい気持ちを意思表示し、一緒に遊ぶ友達を増やすために提案していた。事例2-6では、友達のやり取りを見て、状況把握して省察したり、推察したりして、自分の思いを友達に伝えていた。

このことから、信頼関係のある友達と遊んでいく中で、自分の思いを受け入れ、理解してもらえる安心を感じ、自分から謝るといった言い出しにくいことが伝えられるようになったと考えられる。

(3) 「自己抑制」について

事例2-7では、友達のやり取りを聞いて状況理解し、友達の思いを受け入れていた。事例2-8では、自分も欲しかったが友達が気持ちを切り替える姿を見て、自分も気持ちを切り替えていた。事例2-9では、自分の思いを貫くために、妥協や葛藤し、友達の提案を試行していた。

抽出児の相手意識が高く、同じ遊びをしている友達の思いを考えられるからこそ、事例2-7、事例2-8では、友達の思いを受け入れられた。また、事例2-8では、抽出児が友達の思いを受け入れてくれるから、事例2-9では、友達が抽出児の思いを受け入れ、抽出児は自分の中で思いを抑制できたのではないかと考えられる。

2. 環境の構成と教師の援助について

「探究心」の発達において、保育室内に手に取って調べられるよう図鑑を掲示したり、材料箱に様々な材料を用意したりして、自分で見たり調べたりできる環境を構成しておいたことが抽出児のもっと知りたい気持ちにつながったと考えられる。

「自己主張」の発達において、事例2-4、2-5では、抽出児の思いに共感したり、代弁したりしたことで、自分の思いを友達に話せるようになったと考えられる。また、事例2-6では、直接的な援助をしていないが同じ場所にいることで安心して自分から友達に思いを伝えられるようになったと考えられる。

「自己抑制」の発達において、事例2-7では、教師と友達のやり取りを見て自分から譲っていたが、事例2-8では、抽出児自身が友達と思いを伝え合うことで気持ちを切り替えていた。事例2-9では、自分の思いがあるからこそ、友達の提案を試していた。抽出児は気持ちを受け入れたり切り替えたりするだけでなく、教師や気の合う友達とのやり取りの中で自分の思いを話し、友達の提案を試行する姿が見られるようになった。